

いよいよ始まりました！！アーツ&クラフツ展。

なんと280点もの作品が展示されています。

これらの作品を展示するための作業は、5月29日から6月10日まで10日間もかかりました。たとえば絵画の
展示会であれば5、6日間の作業で十分なところを、その2倍の時間と労力をかけて行いました。多くのスタッフ
の涙ぐましい作業を、一部ご紹介！

まずは会場内のディスプレイです。

10トントラック5台分の資材が運び込まれました。

この資材を大工さんが組み立て、経師屋さんが壁紙をきれいにはってくれます。



↑ 数人の大工さんがなにやら大きなものを組み立てている様子



↑ 組立完了 でも壁はボロボロ



↑ そこで経師屋さんの登場です



↑ 室内空間が完成！

個人的には、この職人さんたちの作業を見ているのがとても好きです。

手わざが光る仕事は、なんだかアーツ&クラフツ運動の主旨にもあってるなあと、感心しながら作業を見守りました。

会場内のディスプレイが完成したところで、またまたトラック 5 台が美術館に到着。

作品が入った木箱が次々と会場に運び込まれました。

この時、展覧会に作品を 120 点も出品されたイギリスのヴィクトリア & アルバート美術館から、作品に付き添うクーリエとして 3 人の方がいらっしゃいました。とてもフレンドリーな方々で、この日から展示作業最終日まで楽しく一緒に展示作業をすることができました。

作品は家具、タペストリーなどの布製品、食器、本など実に様々。

展示前には念入りに作品の状態をチェックし、破損していないか、また壊れやすいところはないかを確認します。



↑ イスの状態をチェックするクーリエ(チャーリーさん)と修復家の方



↑ 横にながいたペストリーをゆっくりと開いていきます (手前右クーリエのスザンナさん)

状態チェックが終わると、作品を展示するのですが、これがなかなか難しい！

普通は同じ壁や空間に展示する作品を全て並べて、全体のバランスを見ながら作品の配置を決めます。しかし

今回はそんなことをしては時間がいくらあっても足りない！なんてったって、280点の作品をサクサクと展示していかなければならないのです。というわけで、まだ状態チェックの終わっていない作品は、同じサイズの型紙を作り、それを壁に貼って実物があると想像しながら、作品の位置を決めていきました。時には、想像通りにいかないこともあり、また想像以上に絶妙なバランスを生み出すこともあったり…



↑家具は倒れないように気をつけて、そっと！



↑ 屏風は倒れないように、壁に固定（作業を見守るグレッグさんは、日本美術の専門家。日本語もぺらぺらです）

様々な試練を乗り越え、配置が大体決まると、作業の終わりが見えてきます。後は作品のキャプションや解説パネルの配置をしたり、照明をしたり。

最後のほうは体力的にも限界でヘロヘロでしたが、周りのスタッフの皆さんが元気に盛り立ててくださり、何とか開会式前日に作業を終えることができました！

というわけで、作業自体はとても大変でしたが、ヴィクトリア&アルバート美術館のクーリエの方、修復家の方、共催の新聞社の方、展覧会監修者の方、そしてディスプレイや展示作業をしてくださった方、また修復の勉強をしている研修生の方など、みんなの力がひとつになって、この展覧会ができあがりました。ひとつのことに向かってみんなが団結していく感じ、そしてできあがった後の達成感を実感できることこそ、学芸員という仕事の醍醐味です！

展覧会は始まったばかり！ぜひとも会場へ足をお運びいただき、この展覧会を楽しんでくださいますよう、スタッフ一同より願っています！

(MM)